

小中高一貫地理教育 カリキュラム研究グループ

2024 年度活動報告書

日本地理教育学会 2024 年度研究グループ
小中高一貫地理教育カリキュラム研究グループ(代表: 吉田剛)

報告書目次

2024 年度研究グループ活動.....	3
2024 年度各ユニット活動報告	5
カリキュラム理論ユニット	6
国内カリキュラムユニット	8
諸外国カリキュラムユニット.....	10
ESD・SDGsユニット.....	11
地理学体系ユニット.....	13
フィールドワークユニット.....	14
GIS・地図ユニット.....	15
テクノロジーユニット	16
実践グループ A.....	17
実践グループ B.....	18
実践グループ C	19
2024 年度研究業績一覧	20
学会発表・報告	20
書籍・論文等	23
研究グループ公式ウェブサイト.....	27

2024 年度研究グループ活動

第1回例会	2024年4月3日(水)	19:30~21:00	オンライン
1) 2024年度ユニットメンバー・ユニット長などの確認・変更などについて			
2) 各ユニットの年間計画作成について			
3) 2024年度の年間計画について			
4) 書籍出版の現状と方向について			
5) 学会連番発表について			
6) 研究費の獲得に向けて			
7) 所属変更などの連絡			
8) メンバー研究業績の報告			
9) 永田先生よりコメント			
第2回例会	2024年7月31日(月)	19:00~21:00	オンライン
1) FWユニット発表			
2) 実践Cの報告(近藤先生ほか)			
① 栗本先生報告: 産業をテーマとした一貫カリキュラムと実践			
② 小澤先生報告: 観光をテーマとした一貫カリキュラムと実践			
人文地理学会・奈良地理学会の例会の案内(8月6日: 奈良女子大学附属学校)			
第3回例会	2024年11月1日(金)	19:30~21:00	オンライン
1) 書籍の進捗状況(吉田)			
2) イベントの連絡			
① 日本地理学会春シンポ(3月19日駒沢大学) ⇒ 臨時例会			
② 地理科学学会(11月16日広島私立大学) ⇒ 臨時例会			
③ 日本社会科教育学会(11月30-12月1日琉球大学) ⇒ 臨時例会			
3) 第2の実践中心書籍構			
4) 第4回例会開催予定12月14日(東京・学習院初等・懇親会有り)の案内			
5) 実践報告: 実践Cグループ(栗本先生発表)			
フレームワークをもとにした詳細なカリキュラムおよび実践の報告			
6) その他			
神戸大附属授業研究会2月開催の案内			
第4回例会	2024年12月14日(土)	16:00-18:45	学習院初等・オンライン
1) 各ユニットからの中間まとめの簡易報告(2024年度)			
2) グループ全体の研究枠組みと方向			
・ 第1弾書籍の印刷・出版スケジュールと大学販売などについて			
・ 第2弾書籍の構想およびユニット・チームの再編成の協議			
・ 第5回例会3月下旬まとめの予定			
3) 2024年度報告書の作業計画			
4) 2025年日本地理学会春季大会シンポの概要			
5) 臨時例会報告			
・ 日本地理教育学会大会(名古屋学院大8/21)			
・ 地理科学学会シンポ(県立広島大学11/16)			
・ 日本社会科教育学会(琉球大学)(編集会議12/1)			

- ・仙台（日本地理教育学会2月例会ハイブリッド：東北福祉大学仙台駅前キャンパス 2/8（土）
- ・日本地理学会シンポ（春季・駒沢大学）3/19

第5回例会	2025年3月25日（火）	19:30～20:30	オンライン
-------	---------------	-------------	-------

- 1) 新メンバー紹介
 - 2) 日本地理教育学会2月例会報告（2/8）
 - 3) 日本地理学会地理教育公開講座報告（3/19）
 - 4) 2024年度の各ユニットなどのまとめ
 - 5) 書籍出版の販売状況や書評依頼状況など
 - 6) 第2弾書籍の構想
 - 7) 2025年度の計画案（グループ最終年度）
 - 8) 研究費獲得状況と計画
 - 9) イベント情報
- ・2025年度の第1回例会の開催日決定
 - ・その他
-
-
-

2024 年度各ユニット活動報告

	ユニット名	ユニット長
理論系ユニット	① カリキュラム理論ユニット	吉田剛
	② 国内カリキュラムユニット	近藤裕幸
	③ 諸外国カリキュラムユニット	阪上弘彬
	④ ESD・SDGs ユニット	永田成文
	⑤ 地理学体系ユニット	河本大地
	⑥ フィールドワークユニット	中村洋介
	⑦ GIS・地図ユニット	國原幸一朗
	⑧ テクノロジーユニット	飯島典子
実践系ユニット	実践ユニットA	吉田剛
	実践ユニットB	阪上弘彬
	実践ユニットC	近藤裕幸

カリキュラム理論ユニット

吉田剛（宮城教育大学）、永田成文（広島修道大学）、
飯島典子（宮城教育大学）

1. 活動の概要

一貫地理教育カリキュラム理論の構築を目指す。そのために、シンポジウムの企画、実践研究との対比、各論としての研究成果の取りまとめや総合的な検討などを行い、汎用的な一貫地理教育スタンダードとなる系統表などの作成を進めて行く。

2. ユニットミーティングの開催記録と主な内容

書籍編集会議を通して、一貫カリキュラムの全体構成について協議した。また幼児教育関連の研究は、飯島先生が担当し、日本地理教育学会で成果発表を行った。

3. 成果

待望の本研究グループ全体の書籍を発刊した。その中で研究成果の整理とともに、とくに一貫地理教育カリキュラムの系統表を示すことができた。

その他、研究成果につながるシンポジウムにおいて各論となる研究発表を行えた。

(1)2024 年度地理科学学会秋季学術大会（第 41 回シンポジウム）

主 催：地理科学学会

テーマ：地理教育から地域づくりを考える—小中高一貫地理教育カリキュラム研究からの提言—

日 時：2024 年 11 月 16 日（土）12:30～17:00

会 場：県立広島大学 サテライトキャンパスひろしま（鯉城会館）504 教室

（広島市中区大手町 1 丁目 5-3）

参加費：500 円（学生・大学院生は無料）

オーガナイザー：阪上弘彬（千葉大）、河本大地（奈良教育大）、永田成文（広島修道大）、木場篤（ノートルダム清心中・高）

趣 旨：

地理教育には今、地域の在り方を考えたり、持続可能な地域づくりの担い手を育んだりすることへの期待がある。これには、社会的背景（人口減少、少子高齢化、持続可能な社会/SDGs）、教育政策的背景（ESD、資質・能力志向の学習）、学術的背景（地理学の地理教育への貢献）などさまざまな要因が存在している。これらを踏まえ、すでに地理教育ではさまざまな理論的・実践的な研究がなされているが、特定の学校種や単元レベルでの提案にとどまっている。持続可能な地域づくりの担い手の育成は継続的になされる必要があり、「一貫地理教育」という視点からの理論的・実践的な研究が不可欠である。そこで本シンポジウムでは、小中高一貫地理教育カリキュラム研究の立場から地域づくりの在り方や方法について議論し、提言する場としたい。

プログラム：

12：30～12：40 開会・趣旨説明

<基調報告>

12：40～13：15 森清成(広島大学附属三原小)：幼小中一貫教育をつなぐものから考える地域づくり
<地域づくりを考える地理教育カリキュラム>

13：15～13：40 吉田 剛(宮城教育大)：幼小中高一貫地理教育カリキュラムの理論—「地域づくり」をテーマとして—

13：40～14：05 永田成文(広島修道大)：小中高一貫地理教育カリキュラムを見据えたESDとしての持続可能な地域づくり

14：05～14：30 牛垣雄矢(東京学芸大)：地域構造図による身近な地域の理解と地域づくりへの活用

14：30～14：45 休憩(15分)

<地域づくりを考える地理授業>

14：45～15：10 小澤裕行(犬山市立城東中)・栗本一輝(愛知教育大学附属名古屋中)：
地域の特色を見出す地理学習—小中高一貫カリキュラムの視点から—

15：10～15：35 木場 篤(ノートルダム清心中・高)：「地域づくり」で援用する地理的概念からみた中等地理教育一貫性の視座—「地理総合」・「地理探究」での授業実践を事例に—

<コメント>

15：35～15：50 由井義通(広島大)

15：50～16：00 休憩(10分)

<総合討論>

16：00～16：50 総合討論

17：00 閉会

(2)2025年日本地理学会春季大会地理教育公開講座(研究発表)

9:00 田部 俊充(日本女子大)：企画趣旨：次期改訂に向けての小中高地誌学習の新たな方向性—
GIS・フィールドワーク・エージェンシー—

9:15 吉田 剛(宮城教育大)：フィールドワークと地誌学習
—地理的探究における地理的な見方・考え方の育成—

9:30 木場 篤(ノートルダム清心中・高)：地誌学習とエージェンシーに関連するもの(仮)

9:45 伊藤 智章(静岡県立富士東)：次期学習指導要領を見据えた地誌学習のあり方について

4. 課題

本研究グループで発刊した書籍をもとに、一貫理論の補充(幼稚園教育における地理教育の理論化、一貫軸間の関係性や地理教育に関連する分野領域との検討など)や「理論」と「実践」の往還に関する議論の深化が求められる。

文責：吉田剛(ユニット長)

国内カリキュラムユニット

近藤裕幸（愛知教育大学）丹治達義（筑波大学附属視覚特別支援学校），森清成（広島大学附属三原小学校），前田諒（仙台市立蒲町中学校），守谷富士彦（桃山学院教育大），吉田剛（宮城教育大学）

1 活動の概要

このユニットの目的は、学習指導要領の地理教育カリキュラムの特徴を目的・内容・技能などの視点から明らかにすることと、これまで地理教育では小中高の一貫性がどのように研究されてきたのかを明らかにすることである。

2 開催記録

12回（4/24, 5/21, 6/25, 7/23, 8/26, 9/24, 10/29, 11/27, 12/18, 1/28, 2/26, 3/25）

3 成果

(1) 丹治達義

本研究に初めて参加し、特別支援教育（視覚障害教育）における地理教育カリキュラム研究の端緒として、本人所属の研究会（日本視覚障害社会科教育研究会）が開発した「みんなの地図帳 初訂版」を使用した授業実践を重ね、盲学校中学生を中心とした指導内容を検討した。

(2) 前田諒

学習指導要領における地理的技能について、対象を中高の「内容」項目及び「内容の取扱い」項目まで広げて分析を行った。平成10年版の学習指導要領で示された技能の定義を基に進めており、次年度も継続する予定である。

(3) 森清成

地理科学学会にて、「幼小中一貫教育をつなぐものから考える地域づくり」というテーマで、基調報告を行った。その報告をきっかけとして、本研究ユニットに初めて参加し、システム・デザイン思考を活用した社会科学習について報告を行った。また、広島大学及び附属三原小中での社会科授業の接続について研究し、社会系教科教育学会にて自由研究発表を行った。次年度も引き続き、幼小中の接続について研究を続ける予定である。

(4) 守谷富士彦

文献化に向けて、2023年度の成果である歴史教育一貫カリキュラム研究について対象事例を追加・更新し、文献執筆を行った。また、これまでの地理教育一貫カリキュラム研究史において、どのような一貫の考え方があったのかの内容を捉え、分類していく途中である。

(5) 吉田剛

日本社会科教育学会（琉球大学大会）（11/30）にて、地理的探究の論理について、香港中学校地理カリキュラム2011年版の再分析を通して、また他のカリキュラムとの対比も踏まえながら、考察した。

(6) 近藤裕幸

地理教育の一貫カリキュラム研究を研究段階の視点から、守谷先生とともに分析したが、今度はそ

の内容の特徴を捉える。具体的には、地誌と系統地理の取り扱い、五大概念等がどのように一貫カリキュラム作成の上で議論されてきたのかを明らかにしている途中である。次年度もひきつづき行う予定である。

4 課題

(1) 前田諒

我が国の学習指導要領における地理的技能について、中・高の特徴の再検討を行う。

(2) 森清成

- ・システム思考及びデザイン思考を取り入れた社会科授業について引き続き研究実践を行う。
- ・幼小中をつなぐ地域空間認識について調査研究及び実践研究を行う。

(3) 守谷富士彦

これまでの地理教育一貫カリキュラム研究史において、どのような一貫の考え方があったのかの内容を捉え分類すること。

(4) 吉田剛

- ・地理的概念と他の一貫軸の関係性や地理空間情報にかかわる様々な新たなテクノロジーについて検討する。
- ・資質を中心とする一貫地理教育に関する実践研究を行う。
- ・幼稚園教育における地理学習のあり方に関する調査研究を行う。

(5) 近藤裕幸

地理教育の一貫カリキュラム研究を研究段階の視点から、守谷先生とともに分析したが、今度はその内容の特徴を捉えて、学会で発表し、論文として投稿する。

文責：近藤裕幸（ユニット長）

諸外国カリキュラムユニット

阪上弘彬（千葉大学）, 吉田剛（宮城教育大学）
永田成文（広島修道大学）, 管野友佳（仙台市立西山小）

1. 活動の概要：

本ユニットは幼小中高一貫のカリキュラムの在り方を検討するために諸外国における地理教育カリキュラムを調査することを主たる活動とする。そこで、本ユニットのメンバーが研究対象国のカリキュラムを中心に提起活動を実施した。

具体的には以下の項目について計画を立て、実施した。

- (1) 諸外国カリキュラムの継続調査を実施する。
- (2) 国内における諸外国地理カリキュラム研究史の調査を実施する。

	全体・CGE	英国	カナダ	米国	豪州	シンガポール	香港	ドイツ
吉田				○	◎NSW	○小学校	○	
永田				△	◎VIC	○		
管野					◎NSW			
阪上	◎	○						◎州カリ

*黄色部分は『地理』で原稿化が完了、青色部分は学会発表や原稿化が完了した部分。

2. ユニットミーティングの開催記録と主な内容

特段ミーティングは設定せず、各自が課題（担当の国家・州）に取り組み、学会発表および原稿化を実施した。

3. 成果

- ① (1) の諸外国カリキュラムの継続調査については、その結果を学会発表、書籍、論文等に各自まとめて、発表することができた。

4. 課題

- ① (2) のカリキュラム研究史までは実施することができなかった。

文責：阪上弘彬（ユニット長）

ESD・SDGsユニット

今野良祐（筑波大附属坂戸高等学校）【中等地理における ESD・SDGs のカリキュラムと実践】

齋藤亮次（公文国際学園中等部・高等部）【中等地理における ESD・SDGs の評価と実践】

阪上弘彬（千葉大学）【諸外国の ESD・SDGs 研究の動向と新しい手法】

永田成文（広島修道大学）【ESD・SDGs の関連と ESD としてのカリキュラム】

1. 活動の概要

ESD・SDGs に関わる授業理論や授業実践やカリキュラムについて、大枠でメンバーそれぞれに担当を割り当てて、ユニット会で発表して改善していく。

地理教育と ESD・SDGs の教育とのかかわりを検討した上で、SDGs の目標やターゲットを視野に入れながら、地理教育における ESD 授業について理論・実践面から検討し、ESD と SDGs の視点から小・中・高一貫カリキュラムを提案(系統的に地理 ESD 授業に SDGs の考え方をどのように導入していくのか)する。

2. ユニットミーティングの開催記録と主な内容

2022 年度①～⑧開催

2023 年度⑨～⑳開催

㉑ 2024 年 4 月 22 日(月)20:00-21:00 (ZOOM)

幼小中高一貫地理教育カリキュラムスタンダードの計画と今年度の進め方の確認

㉒ 2024 年 5 月 27 日(月)20:00-21:00 (ZOOM)

月刊『地理』68-10 に基づいた幼小中高一貫地理教育カリキュラムスタンダードの構成検討

㉓ 2024 年 6 月 27 日(木)20:00-21:00 (ZOOM)

幼小中高一貫地理教育カリキュラムスタンダードの第 5 章第 1 節 12 ページ担当と配分検討

㉔ 2024 年 7 月 19 日(金)20:00-21:00(ZOOM)

幼小中高一貫地理教育カリキュラムスタンダード「地理的価値態度と ESD/SDGs」の原稿検討

㉕ 2024 年 8 月 28 日(水) 20:00-21:00 (ZOOM)

幼小中高一貫地理教育カリキュラムスタンダードの原稿最終確認と地理的価値態度の系統表検討

㉖ 2024 年 9 月 25 日(水) 20:00-21:00 (ZOOM)

幼小中高一貫地理教育カリキュラムスタンダードの系統表最終確認とよりよい実践を求めているの検討

㉗ 2024 年 10 月 31 日(火) 20:00-21:00 (ZOOM)

NCGE 報告(地域活性化を考える ESD プログラム)と各メンバーの研究動向の確認

㉘ 2024 年 11 月 28 日(木)20:00-21:00 (ZOOM)

地理科学学会秋季大会報告と日本社会科教育学会原稿確認

㉙ 2024 年 12 月 16 日(月)20:00-21:00 (ZOOM)

2024 年度活動の中間振り返りと地理教育の変遷と地域調査の評価のルーブリックと授業実践の確認

㉚ 2025 年 1 月 26 日(金) 20:00-21:00 (ZOOM)

第 2 弾書籍のユニット担当の確認と地域調査実践報告と地球的課題実践の構想報告

㉛ 2025 年 2 月 24 日(月祝)20:00-21:00 (ZOOM)

2024 年度活動報告の内容確認と地球的課題の実践報告

㊦ 2025 年 3 月 17 日(月)20:00-21:00 (ZOOM)

2024 年度の活動の振り返りと 2025 年度に向けた各メンバーの研究の確認

3. 成果

- (1) 月 1 回のペースを守って、『幼小中高一貫地理教育カリキュラムスタンダード—近未来社会をつくる市民性の育成—』の担当部分の内容検討や ESD・SDGs にかかわる研究や授業実践の報告を定期的に行うことができた。
- (2) 2023 年度の月刊『地理』68-10「SDGs を活用した地理教育における ESD 授業—小・中・高一貫カリキュラムのアイデア—」の原稿を基に『幼小中高一貫地理教育カリキュラムスタンダード—近未来社会をつくる市民性の育成—』の第 5 章第 1 節「小中高一貫地理教育カリキュラムを見据えた SDGs を活用した ESD 授業」を示すことができた（永田・阪上・今野・齋藤）。第 7 章第 2 節「到達目標となる系統表」の表 7-5 で地理的価値態度(ESD/SDGs)の系統を示すことができた（永田・阪上・今野・齋藤）。
- (3) 2024 年 11 月 16 日(土)の 2024 年度地理科学学会秋季学術大会の第 41 回シンポジウム「地理教育から地域づくりを考える—小中高一貫地理教育カリキュラム研究からの提言—」で、「小中高一貫地理教育カリキュラムを見据えた ESD としての持続可能な地域づくり」のテーマで ESD としての地域調査を核とした地理的探究の考え方と観光まちづくりの実践事例を発表した（永田）。

4. 課題

- (1) 国連総会で採択された「ESD for 2030」や OECD「Education 2030」の GCED（グローバルシティズンシップ教育）の考え方を踏まえ、新しい ESD の目的・内容・方法について今後とも継続して検討していきたい。
- (2) 地理的価値態度(ESD/SDGs)の系統を示すことができたので、これをもとに中・高一貫地理に絞って、地域調査や地球的課題の実践を具体的に提案し、その ESD 授業としての成果とともに中高の接続の在り方を示していきたい。

文責：永田 成文（ユニット長）

地理学体系(地誌・系統地理・ テーマ地理)ユニット

牛垣雄矢 (東京学芸大学)

金田啓珠 (山形県立東桜学館中学校・高等学校)

河本大地 (奈良教育大学)

1. 活動の概要

本ユニットのミッションは、「地誌・系統地理・主題などの地理教育カリキュラムにおける系統について検討する。その他 観光 地域研究 都市などのトピックからの系統についても検討する 」こととされている。

そこで各自の関心のあるテーマについて、各学校種・学年・教科における「地域」に関わる内容とながりの洗い出しをおこない、人口,ローカル地域学習,身近な地形と防災等に関して、現行の小・中・高の学習指導要領における各テーマの取り扱い方や、教科書における各テーマの取り扱い方を調べまとめるなどしている。

さらに、小学校の生活科・社会科、中学校の社会科地理的分野、高校の地理歴史科地理総合の教科書を、地理学の体系である「系統地理」と「地誌」のクロス表(マトリックス)を作成して分析し、一貫カリキュラムとしてのあり方を検討している。

2. ユニットミーティングの開催

メール等で適宜。

3. 成果

吉田 剛・永田成文・阪上弘彬編『幼小中高地理教育カリキュラムスタンダード—近未来社会をつくる市民性の育成—』古今書院に各自が成果を掲載した。また、そのほかにも研究成果を学会等において発表し、さらに論文等も『新地理』『社会科教育』、紀要などに掲載した。

4. 課題

順調に進んでおり、特になし。

文責：河本大地 (ユニット長)

フィールドワークユニット

【小学校】大矢幸久（学習院初等科）

【論文レビューの総括】阪上弘彬（千葉大学）

【高等学校】椿実土里（北海道恵庭南高等学校）

【中学校】中村洋介（公文国際学園中等部・高等部）

【高等学校】林靖子（獨協埼玉中学高等学校）

1. 活動の概要

当初の活動は中村、阪上の2名であったが、2022年8月からは大矢、林、9月からは椿が加わって5名で活動した。おもな活動は、小中高のフィールドワークの現状を学習指導要領と文科省検定済み教科書から確認し、「フィールドワーク」の仮の定義を定めた。ミーティング（オンライン）は月に一度開催し、11月以降のミーティングでは、所属メンバー1名からフィールドワーク実践報告または外国の文献紹介を行い、メンバー間で共有した。11月からは Systematic Review の方法にしたがって、小中高のフィールドワークに関する約130本の研究・実践論文を抽出して、分担してレビューを行った。その結果は2回に分け、2023年度および2024年度日本地理学会の大会で報告した。

なお、「フィールドワーク」の仮の定義は、「フィールド（調査地）に出る学習をいい、その事前事後で地形図・写真などの判読、発表、振り返りなどの諸活動が入る学習」とした。

2. ユニットミーティングの開催記録と主な内容

- ①2024年4月24日：年度当初のスケジュール確認
- ②2024年5月15日：学会発表準備、書籍に関すること
- ③2024年6月10日：大矢先生によるフィールドワーク研究の報告、学会発表準備
- ④2024年7月8日：学会発表準備、書籍に関する確認
- ⑤2024年8月8日：椿先生の文化人類学会大会での発表報告、学会発表準備、書籍に関する確認
- ⑥2024年10月28日：椿先生によるフィールドワーク研究の報告
- ⑦2024年12月18日：林先生によるフィールドワーク研究の報告

- 日本地理教育学会におけるFW研究に関するシステマティックレビューの報告および発表準備
- 各メンバーによるフィールドワーク研究に関する報告

3. 成果

- ①システマティックレビューに関する小中高地理教育における体系的なフィールドワーク研究の成果と課題の把握およびその学会発表
- ②小中高それぞれにおけるフィールドワーク実践に関するメンバー内での実践知の共有

4. 課題

- ①システマティックレビューの結果の原稿化&学会誌投稿

文責：中村洋介（ユニット長）・阪上弘彬

GIS・地図ユニット

伊藤智章（富士東高）
國原幸一朗（名古屋学院大）
佐藤崇徳（沼津工業高専）
三浦徹（北海道札幌丘珠高）

1. 活動の概要

本年度は、伊藤、三浦、國原に加え、佐藤が加わり、4名で活動する体制でスタートした。4月にオンラインで目標と活動内容について話し合い、「GIS・地図活用理論の構築」を目標として、文献レビューを共同で行うことを決め、各メンバーが入力できるフォーマットを作成したが、あまり進まなかった。著書『幼小中高一貫 地理教育カリキュラムスタンダード 近未来社会をつくる市民性の向上』の担当章については、適宜メールで確認しあいながら、伊藤、三浦、國原が原稿作成に取り組み、佐藤が確認する体制で、原稿を完成させた。

2. ユニットミーティングの開催記録と主な内容

4月29日（第1回） GIS・地図活用理論構築のための文献レビューの進め方、著書原稿執筆等

3. 成果

著書『幼小中高一貫 地理教育カリキュラムスタンダード 近未来社会をつくる市民性の向上』の担当章について、適宜メールで確認しあいながら、伊藤、三浦、國原が原稿作成に取り組み、佐藤が確認して原稿を完成させた。

4. 課題

本年度は活動があまりできなかったため、GIS・地図活用理論の構築をめざして、文献レビューを進めるとともに、学校現場でのGISの利用状況と、最近の地理学や地図学、教育学の成果などについて情報を提供しあう機会を設け、活動を活発にしていく必要がある。

追記：

佐藤崇徳先生におかれましては、校務でご多忙の中、オンライン会議にご参加いただき、また著書の原稿についてもご確認・ご教示いただきまして、本当にありがとうございました。

文責：國原幸一朗

テクノロジーユニット

飯島典子（宮城教育大学），國原幸一朗（名古屋学院大学）
木場篤（ノートルダム清心中・高等学校）
鈴木達也（水戸第一高附属中），高橋想奈（秋田大学大学院）
西川祐人（名古屋市立富田中），淵上瞬平（東海中学校・高等学校）
前田諒（仙台市立蒲町中），吉田剛（宮城教育大学），

1. 活動の概要

地理教育におけるICT・AI・ドローンなどの活用法やデータ公開されている地理教材の活用案について話題提供をもとに検討した。

2. ユニットミーティングの開催記録と主な内容

①「地理教育におけるプログラミング的思考の育成について」前田諒氏から以下の発表があった。

プログラミング的思考に関する文科省の資料と、近年の研究を踏まえて、実践を行っていく上での課題をまとめた。また、地理教育の中でプログラミング的思考の育成を試みた実践事例を整理・分類し、中学校社会科地理的分野における実践案を示した。

②木場篤氏がChatGPTを活用した地理学習の実践について話題提供を行い、活用にあたっての留意点や活用の効果を上げるための工夫などについて意見交換を行った。

③高橋想奈氏が360度カメラを用いた教材開発について報告を行い、フィールドワークを補完する学習の可能性を検討した。

④淵上瞬平氏が図書館とインターネット情報の比較検討を詳細に整理し、ICTを活用することのメリットについて確認を行った。

3. 成果

新メンバーに高橋想奈（秋田大学大学院）、西川祐人（名古屋市立富田中）、淵上瞬平（東海中学校・高等学校）の3名が加わり、新しい視点からテクノロジーを活用した地理教育の在り方について意見交換ができた。

4. 課題

テクノロジーが急速に進展し多様なアプリを使って独創的な教材を作成したり、オープンソースを活用したりすることで、授業設計の可能性が広がった。しかし、それらの活用は児童生徒のデバイスに制限がかかっていない場合に実現する。自治体や学校の考え方によっては、事前に設定した状態から変更すること、動画視聴サイトや指定するサイト以外にアクセスすることを制限している場合が多いようだ。このような状況で利用できるものとしては、Google Workspaceやデジタル教科書など限られている。状況が変わった際に対応できるように、たとえば、Gemini for Workspaceによる生成AIを活用した授業設計など効果的なテクノロジーの活用について今後も検討を進めていく。

文責：飯島典子（ユニット代表）

実践ユニット

(グループA)

○吉田剛（宮城教育大）、○高木優（神戸大附属中等）、
木場篤（ノートルダム清心女子中高）、金田啓珠（山形県立東桜学館高）、
移川恵理（仙台市立仙台高）、牛込裕樹（大妻中野中・高）、
前田諒（仙台市立蒲町中）、鈴木達也（茨城県立水戸第一高附属中）、
辻常路（川西市立明峰中）、沓澤遥（宮城教育大附属中）、
守康幸（宮城教育大附属中）

1. 活動の概要【実践ユニット・グループABC全体】

地理的概念などを重視した幼小中高一貫地理教育カリキュラムのフレームワークに基づく授業設計などの実践的研究を行い、一貫地理教育スタンダードづくりのための実践的な検討を行う。

2. ユニットミーティングの開催記録と主な内容

本年度は、本グループの書籍の執筆に集中した。共同執筆する中で、とくに実践研究に関して様々な意見交換を行った。

3. 成果

おもな成果は、書籍の執筆を通して、一貫地理教育カリキュラムのフレームワークなどをもとに、実践研究を概ね説明することができた。該当箇所は、書籍の第6章（第1・4・5節）となった。吉田・永田・阪上編著（2025.1）：『幼小中高一貫地理教育カリキュラムスタンダード』古今書院。

【第6章 実践を研究するーフレームワークの効用ー】

第1節：新たなデジタル・テクノロジーから考える一貫地理教育（pp.142-153）

5項：生成AIを活用した資料づくりと地理学習の実践（守）

6項：新たなテクノロジーを活用する実践へ（吉田）

第4節：テーマから考える一貫地理教育（pp.166-174）

1項：「交通」の単元から考える（鈴木・吉田）

2項：「地形」の実践から考える（金田）

3項：「都市」の実践から考える（移川）

4項：実践のテーマから一貫する理論への往還を考える（吉田）

第5節：さまざまな実践から考える一貫地理教育（pp.175-187）

2項：小学校社会科と中学校社会科地理的分野の実践をつなぐ（沓澤・吉田）

3項：中学校社会科地理的分野と高等学校地理歴史科地理総合の実践をつなぐ（高木・辻・牛込）

4項：高等学校地理歴史科の地理総合と地理探究の実践をつなぐ（木場）

5項：実践から理論づくりの精緻化へ（吉田）

4. 課題

理論と実践を往還する一貫地理教育における実践研究をさらに広げて行きたい。

文責：吉田剛（実践ユニット総括・グループA代表）

実践ユニット

(グループB)

伊藤直哉（広島大学附属中・高等学校）

内川健（成蹊小学校）

大矢幸久（学習院初等科）

阪上弘彬（千葉大学）

椿実土里（北海道恵庭南高）

中谷佳子（千葉大学教育学部附属小学校）

三浦徹（北海道札幌丘珠校高）

1. 活動の概要

小学校（生活科含む）から高校に至る一貫地理カリキュラムに基づく単元開発に取り組む。

具体的には以下に取り組んだ。

- (1) 各メンバーが単元開発シートに基づき開発した結果を共有する。
- (2) 一貫となる軸を設定し、その軸に基づく小～高の単元を開発する。

2. ユニットミーティングの開催記録と主な内容

各学校種における地域参加、地域づくりをテーマとした研究の概要を教科書や実践ベースに整理

3. 成果

- ①小学校（生活科・社会科）における「地域づくり・まちづくり・社会づくり」に関する実態の把握。
- ②『幼小中高一貫地理教育カリキュラムスタンダードー近未来社会をつくる市民性の育成』における分担執筆。

4. 課題

- ①ミーティングを調整できず、大矢先生による報告のみになってしまったこと。
- ②単元開発までには至らなかったこと。

文責：阪上弘彬（実践ユニット総括・グループB代表）

実践ユニット (グループC)

伊澤直人（西尾市立東部中学校）
國武聖志朗（愛知県知多市立東部中学校教諭）
栗本一輝（愛知教育大学附属名古屋中学校）
小澤裕行（犬山市立犬山北小学校）
児玉和優（愛知教育大学附属名古屋中学校）
清水亮佑（名古屋市立栄小学校）
鈴木瞭（名古屋市立緑高等学校）
八木龍一（愛知教育大学附属名古屋中学校）
近藤裕幸（愛知教育大学）

1. 活動の概要

実践と理論にもとづいた小中高一貫の地理教育カリキュラムを作成することである。

2. ミーティングの開催日時および成果等

- ・全体では7回（4/23, 5, 28, 7/23, 8/27, 9/24, 10/28, 11/13, 12/23, 1/22, 2/25, 3/18 予定）
- ・チーム会議は、10～12回

3. 成果

年間を通して、小、中、高校の教員が、で観光（3名）と産業（5名）のチームにわかれ、理論と実践の往還を通して、地理学の五大概念をどのように発展的に児童や生徒に学ばせることが可能なのかを検討してきた。地理教育の一貫性のために、歴史や公民の区分・分野においても、地理教育の内容を取り入れることがどの程度できるのかも検討してきた。

4. 課題

2025年1月、ミーティングで次年度の方針を決め、最終年度の課題とした。出版第二弾のために、産業に関しては、他の学年で五大概念がどのように身に付けさせられるのかについて実践を重ねることとした。観光については、地理の野外活動が諸状況からなかなか実践できない現状が教育現場にあるため、これについての方策を検討することにした。

文責：近藤裕幸（実践ユニット総括・グループC代表）

2024 年度研究業績一覧

1. 学会発表・報告

①カリキュラム理論ユニット

■学会発表

吉田剛(2024.11):幼小中高一貫地理教育カリキュラムの理論―「地域づくり」をテーマとして―. 2024 年度地理科学学会シンポジウム「地理教育から地域づくりを考える―小中高一貫地理教育カリキュラム研究からの提言―」基調報告(2024.11.16)(広島県立大学サテライトキャンパスひろしま)

永田成文(2024.11):小中高一貫地理教育カリキュラムを見据えたESDとしての持続可能な地域づくり. 2024 年度地理科学学会シンポジウム「地理教育から地域づくりを考える―小中高一貫地理教育カリキュラム研究からの提言―」基調報告(2024.11.16)(広島県立大学サテライトキャンパスひろしま)

飯島典子(2024.8):「プログラミングを取り入れた防災教育の授業デザイン」一般発表(2024.8.24)(名古屋学院大学名古屋キャンパスしろとり)

②国内カリキュラムユニット

■学会発表

丹治達義・嶋 俊樹(2024):拡大し、情報を精選した学習用地図帳『みんなの地図帳 初訂版』の開発と実践(日本地理教育学会)

両角遼平, 守谷富士彦「日本人学校における社会科授業の特質と課題 ―実践報告集にみる 現地を対象化・事例化・問題化する社会科―」全国社会科教育学会 第73回大会 2024年10月12日 全国社会科教育学会

守谷富士彦「2018年版カンボジア初等社会科カリキュラムの構成―国民意識形成の社会科から何が変わるように変化するのか―」日本社会科教育学会第74回全国研究大会 2024年11月30日 日本社会科教育学会

吉田 剛「幼小中高一貫地理教育カリキュラムの理論―「地域づくり」をテーマとして―」. 2024 年度地理科学学会シンポジウム「地理教育から地域づくりを考える―小中高一貫地理教育カリキュラム研究からの提言―」基調報告. 2024年11月16日地理科学学会(広島県立広島大学)

吉田 剛「地理的探究の役割―香港中学校地理教育カリキュラム 2011年版の再分析―」. 2024 年度日本社会科教育学会第74回全国研究大会. 2024年11月30日(琉球大学)

吉田 剛「フィールドワークと地誌学習 ―地理的探究における地理的な見方・考え方の育成―」. 日本地理学会地理教育公開講座 発表要旨. 2025年3月19日(駒澤大学)

■報告

吉田 剛(2024):地理的概念, 地理的探究と地理的ツールとは. 教育科学『社会科教育』11月号, 明治図書.No.787, pp.10-13.

吉田剛(2024):一貫地理教育カリキュラムにおける地誌学習の方向～環境拡大アプローチによる地域の枠組みの系統～. 新地理. 72(2), pp.124-129.

③諸外国カリキュラムユニット

■学会発表

吉田 剛(2024.11.30):地理的探究の役割—香港中学校地理教育カリキュラム 2011年版の再分析—。
2024年度日本社会科教育学会第74回全国研究大会、琉球大学。

阪上弘彬(2025.3.20):初等地理教育における「世界」の学習—イギリス地理科,ドイツ事実教授の場合—。日本地理学会春季学術大会:シンポジウム5「初等教育における「世界的視野」の獲得について」、駒澤大学。

④EDS・SDGsユニット

■学会発表

永田成文「小中高一貫地理教育カリキュラムを見据えたESDとしての持続可能な地域づくり」2024年度地理科学学会秋季学術大会第41回シンポジウム「地理教育から地域づくりを考える—小中高一貫地理教育カリキュラム研究からの提言—」,広島県立大学サテライトキャンパスひろしま,2024.11

阪上弘彬「社会系教科におけるESD研究の展開—文献および科研費を対象にした調査—」日本社会科教育学会第74回全国研究大会,琉球大学,2024.12

阪上弘彬「ユネスコによる持続可能な開発のための教育の観点から」広島大学教職大学院シンポジウム「グローバル時代において相互理解を促す道徳教育の役割2—多様性を重んじながら平和への志向性を育む道徳教育を考える—」,広島大学,2024.12

⑤地理学体系ユニット

■学会発表

牛垣雄矢 2024. 地域構造図による身近な地域の理解と地域づくりへの活用。地理科学学会シンポジウム「地理教育から地域づくりを考える—小中高一貫地理教育カリキュラム研究からの提言—」

河本大地 2024. 小中高一貫の視座でとらえる地域学習・地理教育。奈良地理学会 2024年度夏季例会(奈良県高等学校地理教育研究会、第2回奈良県中高連携地理教育学習会)

河本大地 2024. 趣旨説明「流域を活かした地域学習・地理教育の課題と可能性」。第58回人文地理学会地理教育研究部会・奈良地理学会 2024年度夏季例会

河本大地 2024. 山間地の学校における小中一貫の地域学習を児童生徒はどうとらえているか—京都府南丹市立美山小・中学校の事例を中心に—。令和6年度日本教育大学協会研究集会

河本大地 2024. コーディネーター「野外実習の実践と学校教員の仕事環境—実体験を重視した地理教育の在り方を探る—」。人文地理学会 2024年大会 部会アワー(第59回地理教育研究部会)

阪上弘彬・河本大地・永田成文・木場篤 2024. オーガナイザー(シンポジウム「地理教育から地域づくりを考える—小中高一貫地理教育カリキュラム研究からの提言—」)。地理科学学会 2024年度秋季学術大会

西村和真・河本大地 2024. 小中高の社会科・地理教科書と学習指導要領における気候に関する記述の分析。2024年度兵庫地理学協会夏季大会

■報告

金田啓珠 2024. 既習事項と地図を往還する地理総合の授業づくり。山形県高等学校社会科教育研究会

第 69 回研究大会 最北地区地理部会発表「授業で使える地理教材」

⑥フィールドワークユニット

■学会発表

阪上弘彬・中村洋介・大矢幸久・椿 実土里・林 靖子 (2024.8.25)：日本の小中高の地理教育ではフィールドワークはどのようなテーマで研究されてきたのか—システムティックレビューの最終報告—。日本地理教育学会第 74 回大会，名古屋学院大学。

林 靖子 (2024.8.25)：地域調査の学習におけるフィールドワークの一考察—位置と分布に注目した校内フィールドワークをもとに—。日本地理教育学会第 74 回大会，名古屋学院大学。

椿 実土里 (2024.11.3)：地理総合における巡検を取り入れた授業づくり。全国地理教育学会第 18 回大会、専修大学神田キャンパス。

⑦GIS・地図ユニット

2025 年日本地理学会春季学術大会公開シンポジウム 2025 年 3 月 19 日 (水) (駒澤大学)

(第 47 回地理教育公開講座)

伊藤智章：次期学習指導要領を見据えた地誌学習のあり方について—地図・GIS 活用の観点から

⑧テクノロジーユニット

■学会発表

飯島典子・石川あいり・安藤明伸・岡本恭介 (2024.9.7)：「小学校低学年におけるプログラミング的思考を育成するプログラミング活動の試み」。日本教育工学会 2024 秋季全国大会，東北学院大学

高橋想奈 (2024.8.24)：「見学型フィールドワークを疑似体験できる 360 度カメラを用いた教材開発—小学校第 3 学年・社会科での活用を視野に一」。日本地理教育学会第 74 回大会，名古屋学院大学名古屋キャンパスしろとり

⑨実践ユニット (グループ A)

■学会発表

2024 年度日本地理教育学会例会 仙台例会 (2 月) 2025 年 2 月 8 日 (土)

(東北福祉大学仙台駅前キャンパス)

テーマ：東北からの発信—東北で「東北」をどう指導し、どう学んでいるか—

報告：沓澤 遙：身近な地域の調査 データで見る仙台市

コメント：吉田 剛(宮城教育大)

2025 年日本地理学会春季学術大会公開シンポジウム 2025 年 3 月 19 日 (水) (駒澤大学)

(第 47 回地理教育公開講座)

木場篤：中等地理教育の地誌学習からエージェンシーを育成するための提案

吉田剛：フィールドワークと地誌学習—地理的探究における地理的な見方・考え方の育成—

⑩実践ユニット (グループ B)

■報告

阪上弘彬 (2024.11.16): 趣旨説明: 地理教育から地域づくりを考える—小中高一貫地理教育カリキュラム研究からの提言—。地理科学シンポジウム、県立広島大学 (オーガナイザー)

①実践ユニット (グループC)

■学会発表

2024年8月、日本地理教育学会大会 (於 名古屋学院大学) のシンポジウム「地理教育における探究」において、児玉和優先生がパネリストとして中学校における探究学習について発表した。

2024年8月、日本地理教育学会大会 (於 名古屋学院大学) の一般派発表において、小澤裕行 (犬山市立城東中)・伊澤直人 (西尾市立東部中)・國武聖志朗 (知多市立東部中) が、「観光をテーマとした地域学習における小中高一貫地理教育カリキュラム」を発表し、児玉和優 (愛知教育大学附属名古屋中)・栗本一輝 (愛知教育大学附属名古屋中学校)・八木龍一 (愛知教育大学附属名古屋中学校)・清水亮祐 (名古屋市立栄小学校)・鈴木 瞭 (名古屋市立緑高等学校) が、「産業学習における小中高一貫カリキュラムの提案」を発表した。

2024年11月、地理科学学会 (於 広島大学) において、「地域の特色を見出す地理学習—小中高一貫カリキュラムの視点から—」という題目で、小澤裕行先生と栗本一輝先生が発表した。

2. 書籍・論文

①カリキュラム理論ユニット

■書籍

吉田剛・永田成文・阪上弘彬(2025.1): 『幼小中高一貫地理教育カリキュラムスタンダード—近未来社会をつくる市民性の育成—』古今書院. 220p.

■論文

吉田剛(2024.9): 一貫地理教育カリキュラムにおける地誌学習の方向~環境拡大アプローチによる地域の枠組みの系統~. 新地理. 72(2), pp.124-129.

吉田 剛(2024.10): 地理的概念, 地理的探究と地理的ツールとは. 教育科学『社会科教育』11月号, 明治図書.No.787, pp.10-13.

吉田 剛・鹿内隆世・都築和希(2025.3): 幼小中高一貫地理教育における小学校社会科カリキュラムの理論. 宮城教育大学紀要, 第59巻, <印刷中>

永田成文(2024.9): 小中高一貫地理教育カリキュラムを見据えたESDとしての地誌学習の構想—現代世界の諸課題に着目して—. 新地理. 72(2), pp.147-154.

永田成文(2024.10): 住み続けられるまちづくりの地理的探究. 教育科学『社会科教育』61-11, 明治図書. pp.34-37.

②国内カリキュラムユニット

■書籍

日本視覚障害社会科教育研究会編(2024) 『みんなの地図帳 初訂版』帝国書院.

吉田剛・永田成文・阪上弘彬 編著(2025.1): 『幼小中高一貫地理教育カリキュラムスタンダード—近

未来社会をつくる市民性の育成―』古今書院, 220p.

■論文

梶原尚大・吉田剛(2025):地理的な見方・考え方や歴史的な見方・考え方を働かせる中学校社会科の学習指導の工夫. 宮城教育大学教職大学院紀要, 第6号, <印刷中>

吉田 剛・鹿内隆世・都築和希(2025):幼小中高一貫地理教育における小学校社会科カリキュラムの理論. 宮城教育大学紀要, 第59巻, <印刷中>.

③諸外国カリキュラムユニット

■書籍

永田成文 (2024): オーストラリアの動向. 日本社会科教育学会編『社会科教育事典 第3版』, ぎょうせい, pp.388-389.

吉田 剛 (2024): シンガポールの動向. 日本社会科教育学会編『社会科教育事典 第3版』, ぎょうせい, pp.396-397.

吉田 剛 (2025): アメリカ合衆国. 吉田剛・永田成文・阪上弘彬編『幼小中高一貫地理教育カリキュラムスタンダード―近未来社会をつくる市民性の育成』, 古今書院, pp.36-43.

永田成文 (2025): オーストラリア. 吉田剛・永田成文・阪上弘彬編『幼小中高一貫地理教育カリキュラムスタンダード―近未来社会をつくる市民性の育成』, 古今書院, pp.44-51.

阪上弘彬 (2025): ドイツ. 吉田剛・永田成文・阪上弘彬編『幼小中高一貫地理教育カリキュラムスタンダード―近未来社会をつくる市民性の育成』, 古今書院, pp.52-59.

■論文

阪上弘彬 (2024): 一貫地理カリキュラムにおける地誌学習はいかにあるべきか―ドイツの地理教育の分析―. 新地理, 72(2), pp.138-146.

阪上弘彬 (2024): 小学校社会科における「よき市民」の育成―日本とシカゴ大学実験学校におけるCommunity Learningの比較を通じて―. 日本デューイ学会紀要, 65, pp.41-48.

④EDS・SDGs ユニット

■書籍

永田成文・阪上弘彬・今野良祐・齋藤亮次 (2025): 小中高一貫地理教育カリキュラムを見据えたSDGsを活用したESD授業. 吉田剛・永田成文・阪上弘彬編『幼小中高一貫地理教育カリキュラムスタンダード―近未来社会をつくる市民性の育成―』古今書院, pp.121-134

今野良祐 (2024): 世界遺産地域の持続可能性を考える―「世界遺産」を開発教育する―. 湯本浩之・西岡尚也・黛京子編『SDGs時代の地理教育―「地理総合」への開発教育からの提案―』学文社, pp.126-131

■論文

永田成文 (2024): 小中高一貫地理教育カリキュラムを見据えたESDとしての地誌学習の構想―現代世界の諸課題に着目して―. 『新地理』第72巻2号, pp.147-154.

永田成文 (2024): 住み続けられるまちづくりの地理的探究. 社会科教育, 61(11), 明治図書, pp.34-

37.

今野良祐 (2024) : 動く『散布図』で読み解く人口問題. 社会科教育, 61(11), 明治図書, pp.86-89.

⑤地理学体系ユニット

■書籍

牛垣雄矢編 (2024) : 『身近な地域の地理学—地誌の見方・考え方—』古今書院.

牛垣雄矢 (2025) : 内容の構成を考える—人口の扱いを事例に一. 吉田 剛・永田成文・阪上弘彬編『幼小中高地理教育カリキュラムスタンダード—近未来社会をつくる市民性の育成—』古今書院, pp.83-90.

金田啓珠 (2025) 実践を研究する—「地形」の実践から考える—. 吉田 剛・永田成文・阪上弘彬編『幼小中高地理教育カリキュラムスタンダード—近未来社会をつくる市民性の育成—』古今書院, pp.168-171.

河本大地 (2025) 地誌と系統地理からみるつながり. 吉田 剛・永田成文・阪上弘彬編『幼小中高地理教育カリキュラムスタンダード—近未来社会をつくる市民性の育成—』古今書院, pp.71-79.

■論文

牛垣雄矢 (2024) : 地理授業にそのママ使える地誌学—見方・考え方×地理的技能の視点から 動態地誌で作る関東と身近な地域の構造図. 社会科教育 61 (11) , pp.22-25.

河本大地 (2024) : 「地誌」と「系統地理」の関係からみる小中高一貫の地理教育カリキュラム. 新地理 72(2), pp.130-137.

河本大地 (2025) : 当事者意識×まちづくり教育 リアルさが命! 実際のまちの動きを創り出すのを後押ししよう!. 社会科教育 62 (3) , pp.24-25.

河本大地・出羽一貴・落葉典雄・吉田寛・内田忠賢 (2025) : 連携教育開発センタープロジェクト活動報告 高校「地理総合」必修化をふまえた小中高接続を意識した教材開発—流域を活かした地域学習・地理教育の課題と可能性を中心に—. 連携教育開発センター紀要 3, pp.73-77.

西村和真・河本大地 (2025) : 学習指導要領・教科書における気候に関する記述の分析—小中高の地理に関連する学習内容を中心として—. 奈良教育大学 ESD・SDGs センター研究紀要 3, pp.91-100.

⑥フィールドワークユニット

■書籍

中村洋介・大矢幸久・椿 実土里・林 靖子・阪上弘彬 (2025) : フィールドワーク. 吉田剛・永田成文・阪上弘彬編『幼小中高一貫地理教育カリキュラムスタンダード—近未来社会をつくる市民性の育成』, 古今書院, pp.102-103.

■論文

大矢幸久 (2024) : 子どもの願いや思いに根ざした生活科学学校探検における地図活用—小学校第1学年「しょとうかあんないツアーにでかけよう」を事例として. 学習院大学教職課程年報 , (10), pp.13-28.

大矢幸久 (2024) : フィールドワークの技能を育てる社会科見学—県内の特色のある地域(4年). 社会

科教育 , 61(11), pp.46-49.

⑨実践ユニット (グループA)

■書籍

岡本恭介・飯島典子・守 康幸・吉田 剛 (2025) : 新たなデジタルテクノロジーから考える一貫地理教育. 吉田剛・永田成文・阪上弘彬編『幼小中高一貫地理教育カリキュラムスタンダードー近未来社会をつくる市民性の育成』, 古今書院, pp.142-153.

鈴木達也・吉田 剛・金田啓珠・移川恵理 (2025) : テーマから考える一貫地理教育. 吉田剛・永田成文・阪上弘彬編『幼小中高一貫地理教育カリキュラムスタンダードー近未来社会をつくる市民性の育成』, 古今書院, pp.166-174.

飯島典子・吉田 剛・沓澤遙・辻 常路・高木 優・牛込裕樹・木場 篤 (2025) : さまざまな実践から考える一貫地理教育. 吉田剛・永田成文・阪上弘彬編『幼小中高一貫地理教育カリキュラムスタンダードー近未来社会をつくる市民性の育成』, 古今書院, pp.175-185.

■論文

吉田 剛・鹿内隆世・都築和希(2025.3):幼小中高一貫地理教育における小学校社会科カリキュラムの理論. 宮城教育大学紀要, 第59巻, pp.157-173. 査読付

梶原尚大・吉田剛(2025.3):地理的な見方・考え方や歴史的な見方・考え方を働かせる中学校社会科の学習指導の工夫. 宮城教育大学教職大学院紀要, 第6号(印刷中). 査読付

⑩実践ユニット (グループB)

■書籍

佐藤克士・大矢幸久・伊藤直哉・内川健・阪上弘彬 (2025) : 立地概念を中核にして考える一貫地理教育. 吉田剛・永田成文・阪上弘彬編『幼小中高一貫地理教育カリキュラムスタンダードー近未来社会をつくる市民性の育成』, 古今書院, pp.52-59.

⑪実践ユニット (グループC)

■書籍

近藤裕幸・伊澤直人・栗本一輝・小澤裕行・児玉和優・鈴木瞭・八木龍一「『身近な地域から考える一貫地理教育』」 pp.160-165., 吉田剛・永田成文・阪上弘彬編 (2025)『幼少中高地理教育カリキュラムスタンダードー近未来社会をつくる市民性の育成』 古今書院

■論文

小澤裕行・栗本一輝 (2025) : 地域の特色を見出す地理学習ー小中高一貫カリキュラムの視点からー. 地理科学 (近日発行予定)

研究グループ公式ウェブサイト

「小中高一貫地理教育カリキュラム研究グループ」

<https://sites.google.com/view/coherence-geography-education/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0>

編集：飯島典子